

授業科目 統計学

【担当教員名】 遠藤 和男 NR助手	対象学年	2	対象学科	看護
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	30

<概要> 前期の疫学で学んだ事項に加えて、卒業研究に必要な統計学的検定方法について学習し、課題について応用することによって、EBM(Evidence-based Medicine)の基礎について修得する。

<一般目標：GIO>

証拠に基づいた医療であるEBM(Evidence-based Medicine)を用いたチーム医療に参加するために、その道具としての統計学的検定方法を修得する。

<行動目標：SBO>

1. 証拠に基づいた医療であるEBMの重要性を説明できる。
2. 疫学研究で用いられる指標を列挙できる。
3. コンピュータ学習(CAD)に積極的に参加する。
4. 正しい統計学的な検定方法を選択できる
5. 常に証拠に基づいて議論する習慣を身につける。

回数	授業計画又は学習の主題		SBO 番号	学習方法・学習課題
	1	平均値と標準偏差	代表地としての平均値、散布度としての標準偏差について学ぶ	1,2
2	平均値の比較	卒業研究時に最も多用される2群の平均値の差の比較について演習。	2-5	演習(助手が応援)
3	疫学研究の型の復習	前期で学んだ分析疫学的手法について復習する。	2	講義
4	食中毒の原因究明	人口構成その他の違いによる率の調整方法を学び、SMRを計算する。	2-5	演習(助手が応援)
5	アンケート調査	記述疫学の方法やアンケート調査の実際について学ぶ。	2	講義
6	アンケート集計	アンケート調査の集計結果について傾向性の検定などを適用する。	2-5	演習(助手が応援)
7	地域相関研究	地域相関研究の考え方や生態学的偽相関について学ぶ。	2	講義
8	検量線と地域相関	検量線を描くとともに、地域相関研究の例について演習する。	2-5	演習(助手が応援)
9	生命表法とその応用	生命表法の考え方、臨床現場における応用について学ぶ。	2	講義
10	生命表と生存分析	Kaplan-Meier法について各自のデータをCADによって演習する。	2-5	演習(助手が応援)
11	コミュニケーション	ゲームによって合意形成方法の重要性を学ぶ。	2-5	演習
12	KJ法の応用	日本の保健・医療・福祉の問題点についてKJ法を用いる。	2-5	演習
13	二次元展開法	問題解決策について二次元展開法を応用する。	2-5	講義
14	総合演習	各班ごとに課題について討議して発表する。	2-5	演習

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書	医統計テキスト	遠藤和男、山本正治	西村書店	1997第3刷、¥2500+税
参考書				
その他の資料	奇数回はレジメを配布する予定である。専門用語を穴埋めしていくとサブ・ノートが出来上がることになり、それを偶数回目のサブ・テキストとして使用する。もちろん偶数回目の演習用のプリントは別途配布する。			

【評価方法】

1. 演習終了時に小レポートを提出してもらう。
2. レポートのみでは理解度が不明なので、講義の最後に小テストを実施する。

【履修上の留意点】

※昨年度シラバスでは「統計学」が前期、「疫学」が後期に配当されているものの、学習効果を考慮して前期で「疫学」、後期で「統計学」を学習する。